第10回電気絶縁材料シンポジウム
開催にあたって

絶縁材料常置専門委員会
委員長　家田正之

本年は大阪地区において第10回電気絶縁材料シンポジウムを開催することになりました。ここに至るまでには絶縁材料常置専門委員会の委員・幹事諸氏の献身的な御努力と電気学会内の関係各位、とくに電気材料技術委員会（委員長　成田賢仁氏）および絶縁材料耐熱性試験法（委員長　吉岡　浩氏）、絶縁材料コロナ劣化（委員長　岡本英夫氏）、絶縁材料耐電界性（委員長　能登文敏氏）の各常置専門委員会、絶縁材料放射線試験調査専門委員会（委員長　矢作吉之助氏）などの御協力と電気学会事務局および同関西支部事務局の細部にわたる御尽力による所が大きく、厚く謝意を表する次第であります。

本シンポジウムも創設以来、関係各位の熱意と会議参加者の積極的な協力をえて、その規模と国際性を着実に増し、今度、第10回目を迎えることが出来ました。10年の歴史は長いようでもあり、また短いようでもありますが、わが国の電気絶縁工学分野における本シンポジウムの使命と位置づけが、ようやく定着し、その果たしてきた役割も学会内外において或る程度の評価をえていることも事実であります。また本シンポジウムと併行して企画された絶縁材料に関する若手セミナーも本年、第7回を迎え、次代を荷う若手研究者・技術者の育成と、能力開発に果たしている役割も次第に認識を深められつつあるものと確信します。

本シンポジウムが創設以来、一貫してわが国の電気絶縁工学における学問、技術の質的向上とその有機的結合の強化、学際的色彩の強い絶縁工学の電気・物理・化学などの専門家による綜合工学としての発展、海外招待講演者との情報交換を通しての国際性の向上、若手研究者の育成などに注目して活動してきたことは一つの大きな特徴であります。

この様な主旨が次第に関係各位の間で認められつつあることは御同慶の至りでありますが、これと併行して、例えば講演申込件数は年々増加の傾向をみせ、その取扱を含めた会議運営上の諸問題が提起されて参りました。本年も4部門の特定テーマが設定され、一般講演も含めて、46件の講演が応募されました。会議時間の制約を考慮して、その取扱いに対し慎重協議した結果、従来とは異なるポスターセッションと2会場パラレルセッションの導入を決断し、応募講演全べてを採択することにしました。この様な画期的ともいえる会議運営上の試行には多くの問題点が指摘されると思いますが、参加者諸氏の御協力をお願いすると共に、会議終了後、卒直な御意見をアンケートを通してお寄せ下さる様重ねてお願い致します。

また外国人招待講演者として、スエーデン国ＡＳＥＡ社より絶縁劣化に関する先駆的業績をもつKelen博士とスイス国チューリッヒ工科大学より高電圧工学の世界的権威者であるZaengl教授の両氏を迎えることが出来ました。種々困難なる情勢のなかで、当委員会の招待を御快諾下さった両氏と種々御尽力をいただいた関係各位に改めて厚く御礼申し上げます。

本シンポジウムが、わが国の電気絶縁工学の学問的・技術的向上に対して、いささかでも役割を果たすことを期待するものでありますが、参加者各位におかれましても、その主